

令和5年度 フェムテック等サポートサービス実証事業

最終成果報告



パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の
健康伴走サポートサービス伴走型サービス

確かな信頼と安心を届け、
母子のwell-beingを実現

令和6年2月28日

株式会社MamaWell



アジェンダ

- 01 事業計画
- 02 事業計画に基づき実施したこと
- 03 事業の成果
- 04 今後の展開

01

事業計画



パーソナル助産師による母子のサポート実証事業

事業背景

妊娠年齢の高齢化による、妊娠合併症リスクの増加



事業目的

パーソナル助産師によるデータに基づいた母子の健康伴走サポートで、
正常経過から逸脱する妊婦を減らす

プロジェクト目標

1. 妊娠合併症・妊娠中のマイナートラブルの発生率の低下
2. 妊娠に伴う離職率の低下・労働パフォーマンス維持
3. 妊娠期・産褥うつが発生率の低下





実施事項

事業の2つの柱

その1

妊娠中の適切な
運動サポート



活動量モニタリングで
適切な運動を促し...

- 妊婦の適切な運動・体重管理
- 妊娠中の体力向上

その2

妊娠・出産に
関する相談



助産師による定期面談で...

- 妊娠に伴う身体の変化に対する知識の習得
- 就労の快適度の上昇・不安軽減
- 妊娠に関する不安軽減

成果目標

健康と仕事の両面をアンケート
による定性・定量評価を行う

1. 妊娠・出産に関する知識の向上、
就労中の不安の解消
2. 適切な妊娠中の活動量・体重増加量を維持できたかどうか
3. 妊娠による身体の不調が原因の
離職防止効果
4. 不安感、体力向上、マイナートラブルの解消

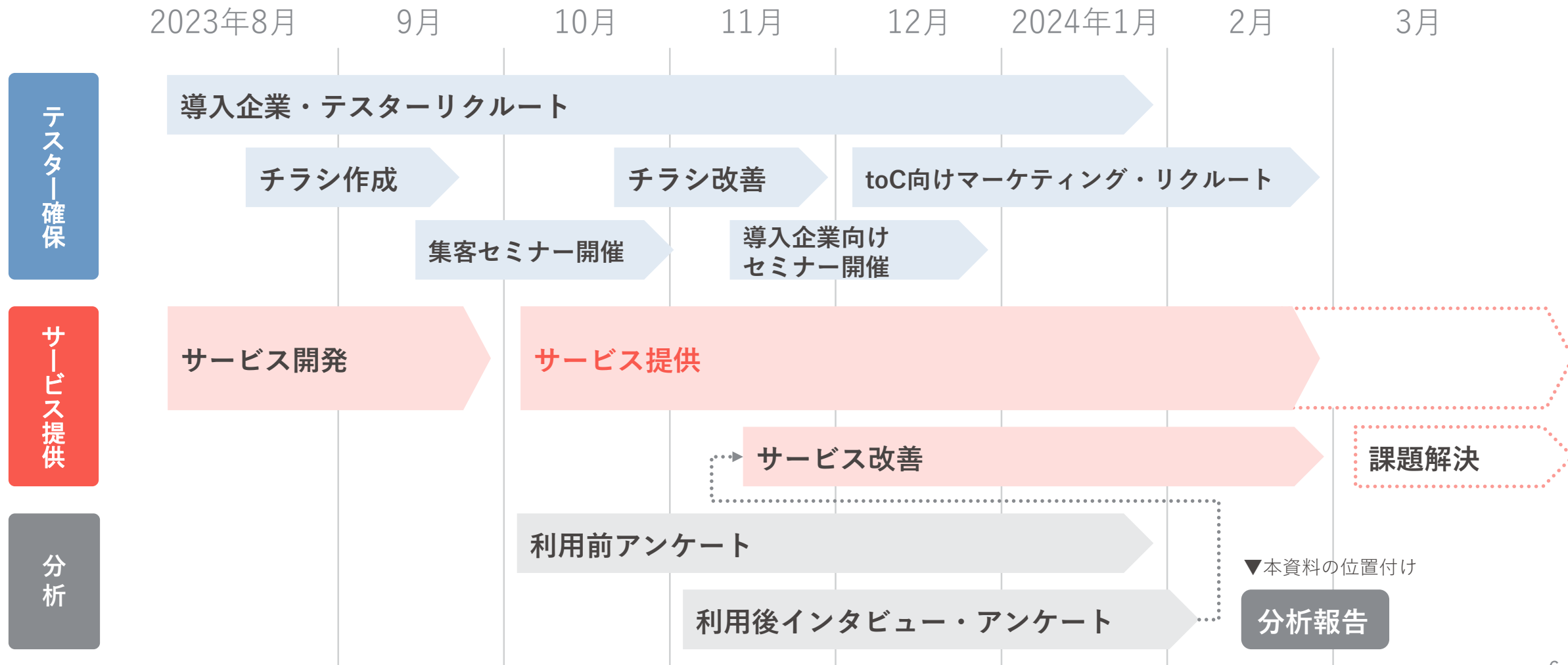
02

事業計画に基づき 実施したこと



施策スケジュール

①テスター確保 ②サービス提供 ③分析 の軸で施策を実施





①テスターの確保

ターゲット毎にアプローチを変えて、テスターのリクルートを実施した。

共通

- WEBサイト(LP) の新設
- プレスリリース対応
- チラシ作成
- メディアへの掲載・出演

大手企業の開拓

- セミナー企画・開催
- 人事担当者への課題 ヒアリング・アンケート
- 企業内周知施策の企画

協力機関の連携

- 自治体での周知依頼・チラシ配布
- 医療機関での周知依頼・チラシ配布
- 新規協力機関の開拓

追加施策

toC への認知拡大

- ポスティング広告
- リスティング広告



①テスターの確保 -実施例（一部抜粋）-



◀☒チラシ

利用者確保に向け、利用者の声の掲載や実証事業中は無料で利用可能な旨を強調

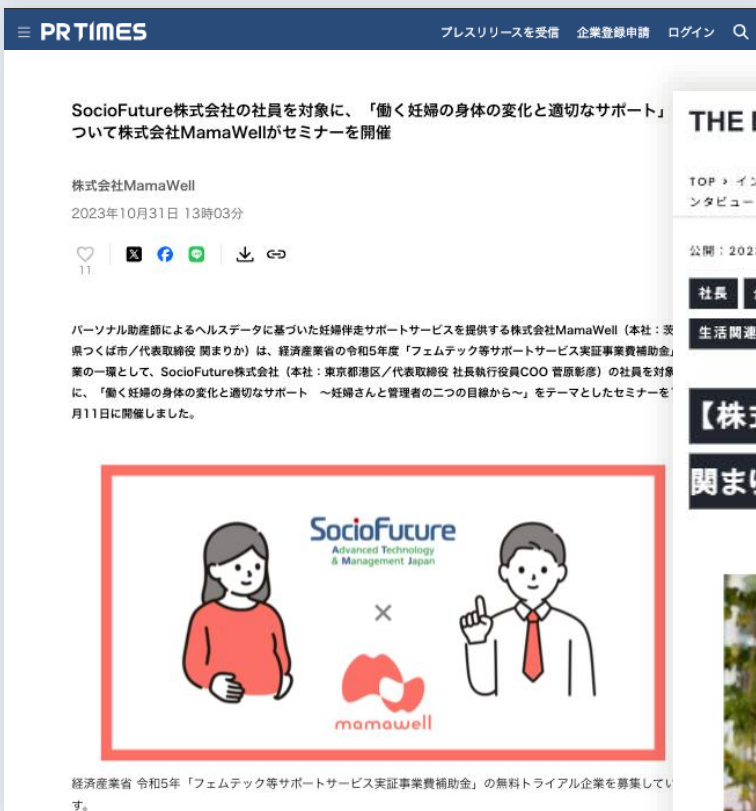
WEBサイト(LP)▶☒

サービス内容を詳しく紹介するランディングページを新規開設

<https://personaljosanshi.mamawell.jp/>



▼プレスリリース



▼メディア露出



- <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000116438.html>
- <https://eight-media.co.jp/the-leader/interview/mamawell/>



②サービス提供

下記サービス提供の過程で事業実証を行った。併せて運用体制基盤の構築も実施した。

Solution 1



ウェアラブル端末で 健康モニタリング

- ウェアラブルデバイスの貸与・利用促進
- 自社アプリの開発・利用促進

Solution 2



データに基づく 定期生活プランニング

- 妊婦一人一人に専属助産師つけ健康を伴走サポート
- 週に一度の個別面談

Solution 3



不安や悩みに寄り添う いつでも相談

- 専属助産師によるチャットでの相談受付



③分析

対話形式・アンケート形式・インタビュー形式で漏れなくユーザーの声を拾い、分析・改善を実施した。

利用前

- 妊婦が所属する企業の人事担当者等へのヒアリング
- 妊婦本人へのアンケート

利用中・利用後

- 妊婦が所属する企業の人事担当者等へのヒアリング
- 妊婦本人へのアンケート
- 妊婦本人へのユーザーインタビュー

定性・定量の両軸で分析を行い、サービス改善に繋げる

03

事業の成果



参加者・参加企業数

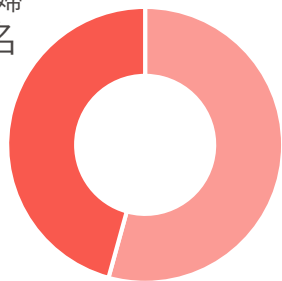
プログラムに参加している企業内の妊婦に加え、個人の妊婦へのアプローチを実施

成果

計**35名**の妊婦がプログラムへ参加

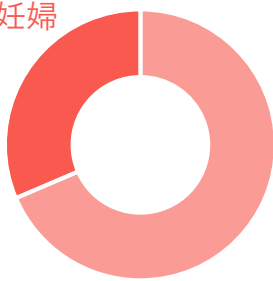
- 年齢 27歳～41歳
- 週数 13週～38週
- その他属性(下記グラフ参照)

経産婦
16名



初産婦
19名

ハイリスク妊婦
11名



正常
24名

成果

5団体(11社)がプログラムへ参加



株式会社 富山環境整備

for

Startups, Inc.

SocioFuture
Advanced Technology
& Management Japan



西日本新聞社

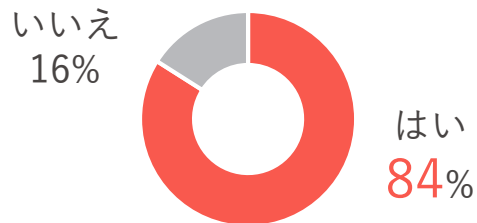
...他



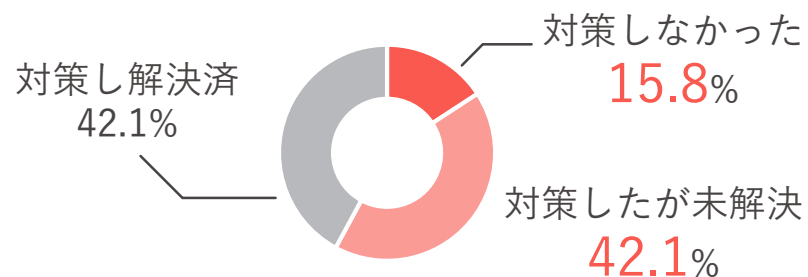
不安や困りごとの多くが未解決のまま

サービス利用前に行なった、顕在化していた困りごとについて調査

Q.妊娠中に働くことに不安や困りごとがある



Q.何か自分で対策を行ったか



結果

利用者の約**8割**が**困りごと**はあるが
そのうちの約**6割**は**解決に至っていない**

フリー コメント

具体的な困りごと

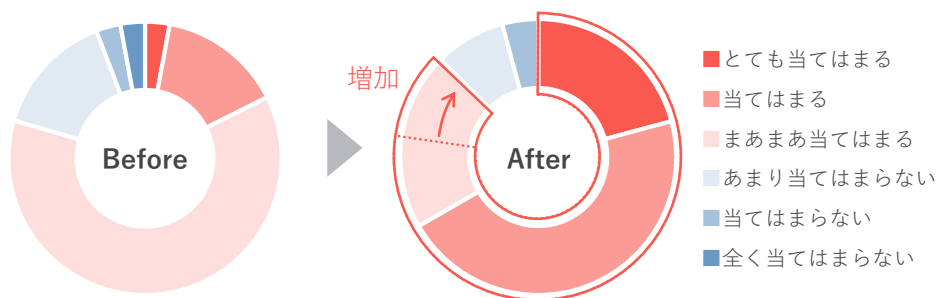
- 知らず知らずのうちに無理してしまう
- 妊婦健診で有給を使わざるをえないこと
- 妊娠中の体調不良により職場とのやり取り、休み、時短を取るによりキャリアや評価への影響、マネージャーとしてちゃんと管理できていないことの心配
- 上司に妊娠や出産で苦労した経験がないと、伝わりづらい



妊娠・出産に関するヘルスリテラシーの向上

サービス利用前後における、妊娠・出産に関する正しい知識へのアクセスに関する調査

Q. 女性の健康についてのたくさんの情報から、
自分に合ったものを選ぶことができる

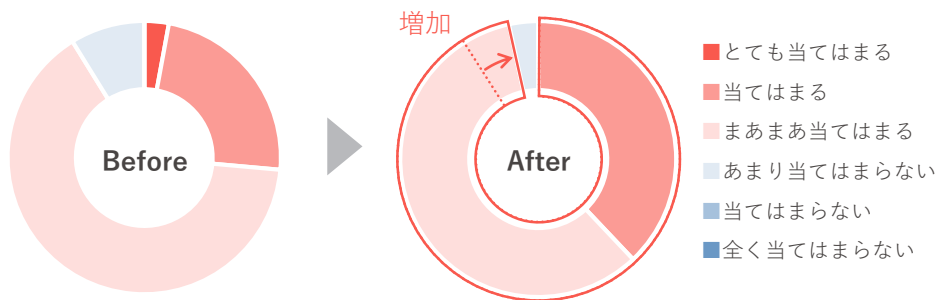


成果

知識面、行動面ともにリテラシーが**向上**

- 「とてもあてはまる」と答えた割合は15%から21%へ向上した。
- 行動に移すということについても当てはまるとしたグループは全体で89%から97%へ増加した。

Q. 自分の体のことについて、アドバイスや情報を
参考にして実際に行動することができる



傾向

サービスを利用することで妊婦のヘルスリテラシーが向上した。
特に、正しい情報へのアクセスに自信を持つ層が顕著に増えた結果となった。

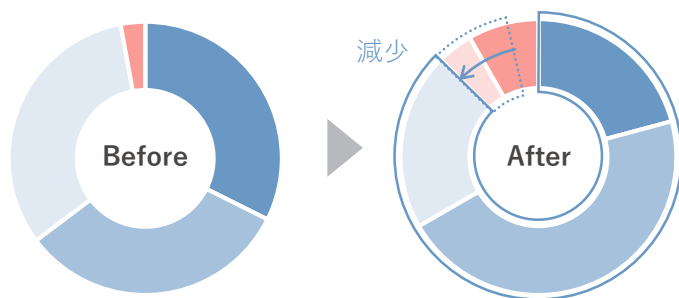
週1回の面談を通じて、利用者個人レベルで疑問⇄解消という学習サイクルが周ったことや適切な情報への案内などが要因と考えられる。



仕事への課題感の解消

健康課題が、働きやすさやキャリア形成への影響があると思うかについて意識調査

Q. 女性特有の健康課題を抱えることで、
働きやすさやキャリア形成への
ネガティブな影響があると思う



■ とても当てはまる	■ 全く当てはまらない
■ 当てはまる	■ 当てはまらない
■ まあまあ当てはまる	■ あまり当てはまらない

成果

ネガティブ意見が少し減少

- サービス開始前後で「当てはまる」とネガティブに考えた人の割合が97%から87%へ減少した。
- サービス利用後にキャリアへの「影響がない」と感じた割合が利用前の3%から12%へ増加した。
- 「とてもあてはまる」と回答した割合は利用前の32%から21%へ減っており、障壁を強く感じる人が減った。

傾向

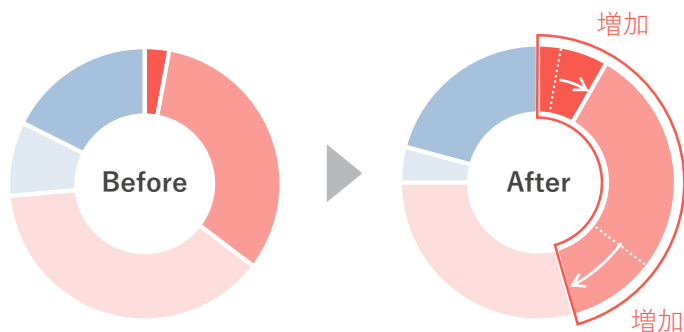
キャリア形成へのネガティブな影響があると感じる層が減った。
要因としては、サービスを通して心身の健康状態が改善されたことで課題感を払拭できたことが考えられる。



キャリア形成へ意欲的な傾向へ変化

サービス利用前後におけるアウトカム変容の有無について調査

Q.私は、将来のキャリアで
取り組んでみたいと思っていることや
目標がある



■とても当てはまる ■全く当てはまらない
■当てはまる ■当てはまらない
■まあまあ当てはまる ■あまり当てはまらない

成果

- 「とてもあてはまる」と答えた割合が利用前の2%から利用後は8%へ増加した
- 「あてはまる」とした割合は32%から38%増加。
- 「あまりあてはまらない」と回答した割合は8%から4%へ減り、一方で「あてはまらない」と回答した割合は増加した。

傾向

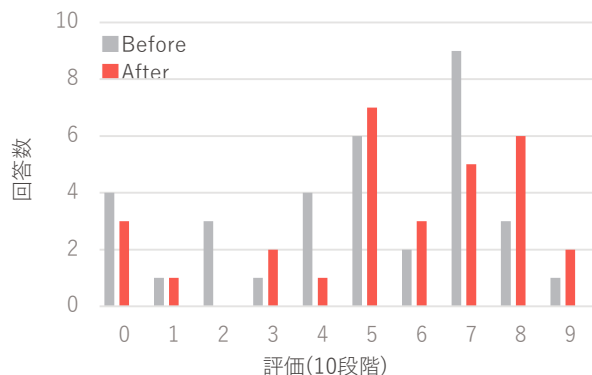
ポジティブとネガティブでの全体的な評価の割合は変わらないものの、介入により肯定的な影響を与えた結果、高い評価をする割合が増えた。



プレゼンティーズムの改善・生産性が向上

サービス利用前後における、プレゼンティーズムの変化について調査

絶対的プレゼンティーズム

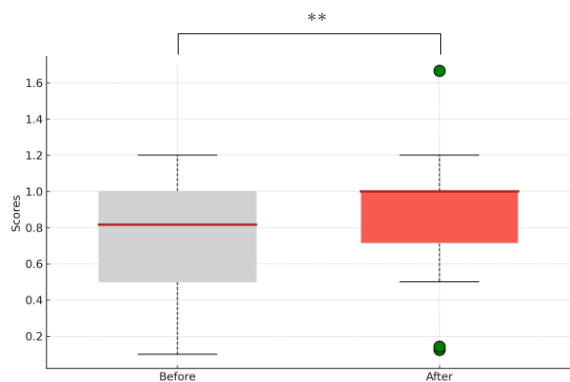


成果

サービスの利用により、絶対的プレゼンティーズムが**改善**

- 0点-3点の低評価の割合が26%から、サービス利用後には20%へ減少した。また0点の最低評価をした割合も2%減少し、全体として**低評価は減少**した。
- 7点の割合がサービスの利用前後で減少し、8点の評価が増え、**高評価帯へのシフト**が見られた。
- 6点の割合がサービス前後でわずかに増加し、加えて4点の評価が著明に減少し、**中間評価が微増**した。

相対的プレゼンティーズム



成果

サービスの利用により、相対的プレゼンティーズムが**改善**

- 自身の健康問題をサービスを通して効果的に管理できたことで、仕事のパフォーマンスが改善され、**プレゼンティーズムが改善**した。
- 身体的な健康問題の解消に加え、不安などの心理的なストレスも解消されたことが**生産性の向上**をもたらしたと思われる。

利用前後でのスコアに**有意差を認め**、サービスの利用がプレゼンティーズムの改善に寄与することが示された。

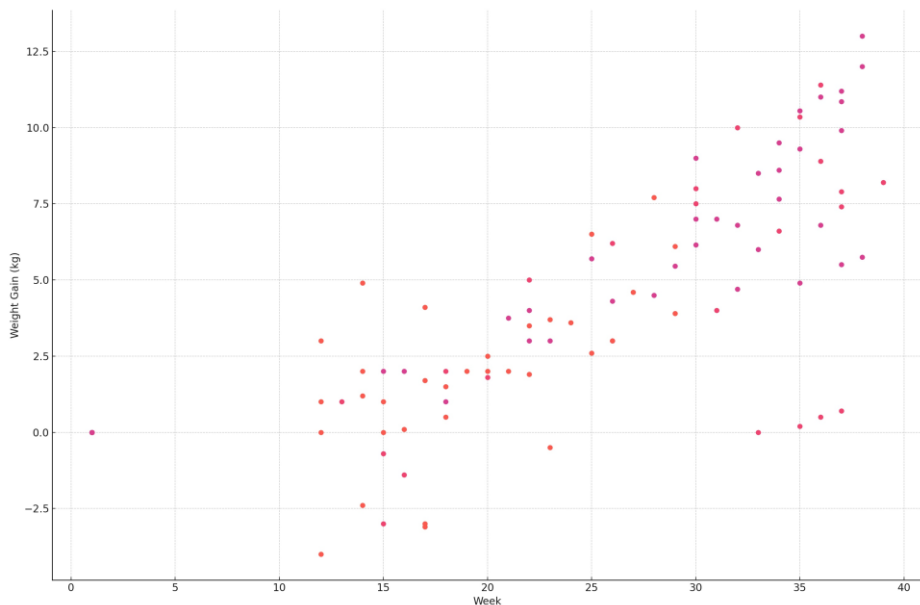
** p < 0.05



離職・合併症の発症率

妊娠中の健康体重維持と、離職・妊娠合併症の発症率を調査

成果1 平均体重増加 506g/週をキープ



週数と体重増加の分布

成果2

全参加者35名中

離職者 **0名**

早期離脱も含む

出産6件中

早産・緊急帝王切開 **0名**

出産6件中2件はハイリスク妊娠

傾向

- 15週～17週にかけては体重減少が見られる妊婦が散見されるが、ほとんどの妊婦が適切な体重増加幅にのって過ごすことができた。
- サービス利用者全員が、**就労を継続**できている。
- ハイリスク妊婦も多い中で、適切な健康支援を提供できていることが、就労継続に繋がっている。
- 出産時における**トラブルの発生なし**。

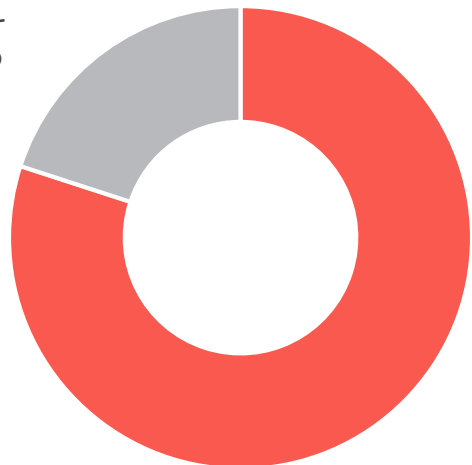


サービス利用満足度

サービス利用後における、サービス全体の満足度について調査

Q.サービスを利用して良かったですか？

いいえ
20.0%



はい
80.0%

成果

利用者の8割が
サービスを利用して良かったと回答

フリー
コメント

- 助産師さんと話をして相談できることで、不安や悩みが和らぎ心理的にかなり安心できる。活動量についても細かくアドバイスを受けることができるため、自信の体調管理がしやすくなった。
- すぐに相談できる環境があるということが、精神的な安定につながっていると思います。
- 助産師さんに実際の活動量を見てアドバイスを頂けるので安心して日々の生活を送れる。週数に応じたストレッチ動画も提案いただけるので、日々ストレッチをするようになり、腰痛など身体の不調の改善にもつながったように思う。



心身・キャリアへのポジティブな効果

サービス利用前後における、心身・キャリアへの変化について調査

Q.サービスの利用により、勤務に対してどのような影響があったか

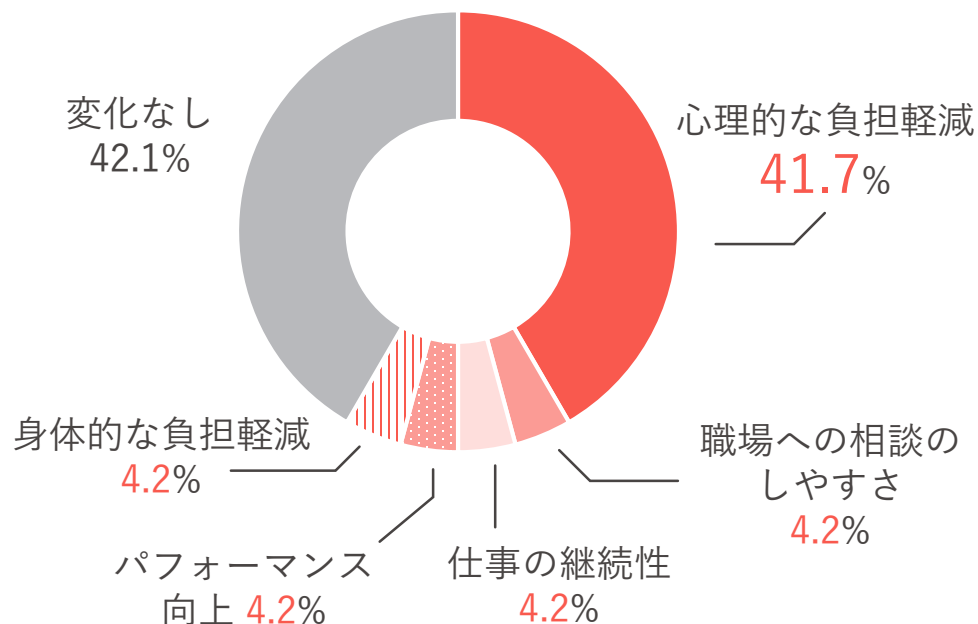
成果

利用者の約**6割**がサービスの利用により
変化を実感と回答

傾向

変化を実感したと答えた人のうち、

- 7割は「勤務が精神的に楽になった」と回答
- 2割は就労継続や生産性の向上など、キャリアへの言及が見られた
- 職場内で相談がしやすくなったなどのコミュニケーション問題の解消を実感する人も見られた。





本事業における成果のまとめと課題

成果

- ハイリスク妊娠を含め、合併症や早産などの発生がなく、経過においても適切な体重増加を導いており、安心安全な妊娠生活へ寄与することができた。
- また、助産師との週1回の面談を通して、適切な情報への案内や疑問⇔解消の学習サイクルが周ったことで、利用者のヘルスリテラシーの向上が見られた。
- 加えて、肉体的な健康問題や精神的な不安が解消されることは、プレゼンティーズムを改善し、さらにはキャリアへの意欲的な姿勢を作ることにつながることを示唆された。

課題

- 実証期間が短く、サービス提供を行えた期間が4ヶ月であった。
→妊娠期間の半分にも満たず、妊娠期間を通して検証ができるとより確からしいモデルになると思われた。
- プレゼンティーズムや生産性向上という点について、妊婦のみへのアプローチだけで終わってしまった。
→企業側とも連携性を高めることでさらなる向上が見込めることがわかった。

04

今後の展開



地方自治体等と連携、利用者・認知度拡大を目指す

利用者増加に対応できる助産師ネットワークも並行して構築

地方自治体



つくば市
City of Tsukuba



柏市
KASHIWA CITY

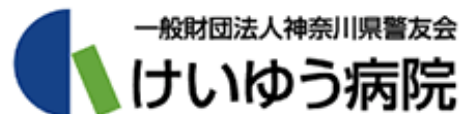


千葉市
CHIBA CITY



Smart City TQYAMA

医療機関



一般財団法人神奈川県警友会

けいゆう病院

産院・レディースクリニック・
不妊専門クリニック等

助産師ネットワーク

